

Kumamoto Mental Health Hospital "REFLE"

2026
Summer

夏号

Vol.

87



りふれ



Kumamoto
Mental Health
Hospital

医療法人 再生会

くまもと心療病院

♥ 地域に開かれた病院を目指して…

理念

くまもと心療病院は、精神障害者と共に暮らす、より良き地域社会の実現に向けて、地域における精神保健・医療・福祉に奉仕します。

基本方針

- ① 患者様やご家族に満足していただくために、医療サービスの質の向上に取り組みます。
- ② 全職種が一体となり、チーム医療を実践します。
- ③ 患者様の人権を尊重し、人に優しい安全な医療を提供します。
- ④ 患者様の地域生活を支援します。

巻頭言 2026年 夏

医療法人再生会 くまもと心療病院
理事長・院長

荒木 邦生

強烈な台風が沖縄・宮古島を襲った。今年の夏は猛暑が予想されているが、台風の当たり年にもなりそうである。いずれにしろ厳しい季節である。風鈴とかき氷と花火という、懐かしくて優しい夏が恋しい今日この頃である。

私事ではあるが、最近3泊4日の入院を経験した。入院は短期間と言え、不安や不自由さを感じるものである。その中の唯一の楽しみは食事である。今回の他院での経験から感じたことは、当院の食事がとても美味しいことである。暑い中一生懸命調理してくれている栄養課のスタッフの苦勞に感謝したい。温めて出すだけの食事はどこか素っ気なく味気ない気がした。

物価高騰と円安が止まらない。普段スーパーであまり買い物をしない私でも、いろんな物の値上がりを感じている。外国人旅行者は一杯千円を超えるラーメンの値段を「安い」と言い、驚くほど値上がりした東京のホテルの宿泊料を「普通」という。外国人旅行者が増えるはずである。しかしいつから日本はこんなに弱くて安い国になったのであろう。技術立国でもなく安全でもなくなったら、いったい日本は何の国だろう？

病院経営は相変わらず苦勞している。病床利用率の低下と人手不足のダブルパンチで「何とかしなくては」と悩んでいても仕方がない。やれることをやって「ダメなら仕方ない」と腹をくくって動かねばならない。

世の中はAIが急速に普及して変わりつつある。うまく利用すれば個人や企業に大きなメリットを生むと言われている。ところで病院や介護施設にとってAIはどんなメリットをもたらすのだろうか。AIを学習したロボットが食事や入浴介助、おむつ交換などを行っている風景が私にはまだ見えない。しかしマニュアル車や機械式時計、レコードなどアナログ的なものが好きな私の脳が、いつかAIのような進歩を受け入れる日が来るのだろうか。



りふれ 2026年 夏号の表紙

……青空に咲く、ひまわりにエール！

この写真は、南阿蘇に行った時のものです。大空の青と鮮やかなひまわりの黄色のコントラストが夏を一層盛り上げる。夏の暑さに負けず、劣らずに大輪の花を咲かせている力強さが伺える。暑ければ暑い程元気を出して生きていくイメージでカメラを向けました。ゴッホがひまわりの絵を描いた理由がわかる様な気がします。

(第8回 職員写真コンテスト入賞作品より 撮影者：東3階病棟看護師 田代)



第23回

笑い顔

今回は、西2階病棟（精神科一般病棟）の田川師長です。今年4月に発行された当院の文芸誌「きぼう」に介護と家族をテーマにした文章を書かれており、率直な文章に励まされる思いがしました。そこで、この「こころの寺子屋」でも介護に関することに触れて綴っていただきました。

みなさんこんにちは、西2階病棟の田川カツ子です。

我が家では子育てが終わろうかとしている頃に、親の介護の時期へと移っていきました。親は精神面や身体面の機能が徐々に変化し、判断能力や身体機能の低下により、多くのサポートを要しています。認知症の診断を受けた親は、身体機能がある程度自立しているために、余計にイライラすることもあるようで、感情を表現することが増えました。他の親もですが、過去のトラウマ（傷つき体験）や抑制された感情を抱えているようで、繰り返される苦労話や悲嘆の言葉、これまでできていたことができなくなる喪失感やこだわりがあり、私たち家族は日々そうした思いに触れています。介護する側としては、繰り返される言葉と行動に、在宅での関わりの難しさを感じる場合があります。在宅で介護する側は、24時間関わる者として、身体的な負担や精神的なストレスを受けやすく、看護の仕事とは違う状況を体感しています。

そんな中で、クスッと笑ってしまう会話をしてくれる家族がいます。日常のちょっとしたエピソードを面

白おかしく話す様子をみていると、親も私たちも笑顔になります。そして、笑顔の家族を見て、笑顔を引き出す介護の大切さを実感します。しかし、笑顔を引き出すことは簡単ではなく、誰にでもできることではないと、これもまた実感する思いです。

「笑い顔」は心身の緊張をほぐし、不安を和らげる非常に強力なコミュニケーションツールです。さらに、認知機能の低下を予防し心を開きやすくする効果があり、介護者側にとっても感情のコントロールに役立ち、介護者自身のストレス軽減に繋がるといわれています。

昔、看護学生だった頃に教務主任から「精神医学は全科共通しているから勉強したらいいのではないか」とアドバイスを受け、精神医学に目を向けました。ですが、実際は奥が深く難しさを感じています。しかし、家族や自分自身の状況を通して身体や精神を学ぶことで、さらに理解していけるものだとも感じています。今思うのは、介護は一人で抱え込まずに協力しあうことで過度なストレスが軽減できるのだ、ということです。

これからも続く介護の日々を、美味しいものを食べて気分転換をしながら、談笑して、家族で笑っていきたいと思います。



Profile

西2階病棟 師長 田川 カツ子

Katsuko Tagawa

2007年 くまもと心療病院 入職

2023年 病棟師長 就任 現在、精神科一般病棟（西2階病棟）師長





医療法人再生会

職員互助会みどり会総会・懇親会開催

5月22日（金）18：00より、宇土市内にある「宝友」さんで職員互助会みどり会総会・懇親会を開催しました。総会には79名、懇親会には120名の職員の皆さんが参加しました。

懇親会では初めに永年勤続表彰があり、長年勤務された職員の功績を称え、荒木院長より一人ひとり表彰状と目録（※）が授与されました。それぞれのテーブルでは美味しい食事を囲みながら仕事の話やプライベートな話など大いに盛り上がっていました。会の途中からは抽選会、カラオケなどもあり、カラオケは終了予定時間を過ぎるほどの大盛況でした。

和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができ、部署や世代を超えた職員同士のつながりが出来たのではないかと思います。新たなつながりを通じて、これまで以上に業務連携が円滑に進み、コミュニケーションの多い働きやすい環境になればと思います。

※永年勤続表彰（10年、20年勤続など）を受けた方には、目録として特別休暇と旅行などで使用できる褒賞金が授与されます。





第48回

職員研究発表会

7月3日(金)、当院の体育館において「第48回職員研究発表会」が開催されました。当日は多くの職員が参加。毎年ご指導いただいている福岡大学医学部看護学科教授の藤野先生をコメンテーターにお迎えし、看護部3席に加えデイケアと地域相談支援科の計5席の発表が行われました。発表を通じて各部署の日常業務への理解が深まるとともに、他部署のこれまでの歩みや取り組みを共有する貴重な機会となり、今後の更なるチーム医療の向上へとつながる充実した発表会となりました。

	テーマ	発表部署
1席	アルツハイマー型認知症患者に対する 看護師による股関節・膝関節への拘縮予防介入の効果	西2階病棟
2席	長期医療保護入院者の家族が退院を受け入れるための 意思決定支援について	地域相談支援科
3席	精神科看護師におけるセルフコンパッションと 倫理的行動の関連	西1階病棟
4席	精神科デイケア・デイナイトケア職員が経験した カスタマーハラスメントの実態調査	精神科デイケア
5席	精神科閉鎖病棟における 夜間スマートフォン自己管理導入について	東4階病棟
講評／ 福岡大学医学部看護学科 精神看護学 教授 藤野 成美先生		



荒木院長の開会あいさつ



藤野 成美 先生



研究発表者の5名



発信

にん ち しょう しつ かん い りょう

認知症疾患医療センター

令和8年5月27日に、令和8年度第1回熊本県認知症疾患医療センター事例検討会が開催されました。今回はZOOMによるオンラインで開催されました。

事例発表は、天草病院から「在宅か、施設か ～独居認知症高齢者の支援を通して～」、熊本大学病院から「認知症のリハビリテーションにおける精神科作業療法士の役割について ～実践報告～」の2題の提供がありました。

認知症教育セミナーでは、今年度から熊本県基幹型認知症疾患医療センター長に就任された、奥村 武則先生より「認知症診療のこれからを考える 一診断・治療・支援の新たな視点一」について講演がありました。事例発表、認知症教育セミナーと、とても貴重な学びの機会となりました。熊本県基幹型認知症疾患医療センターも新体制が整い、これから熊本県の認知症医療はさらに盛り上がっていくと思われます。



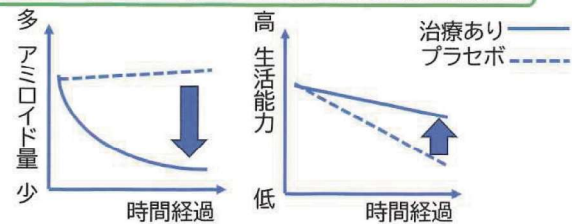


どんなお薬？

従来の認知症治療薬は、アリセプト、レミニール、イクセロンパッチ、メマリーの4種類があり、神経細胞の間の伝達を調整することによって、今ある症状を和らげるお薬でした。

これに対して新しい薬の レカネマブ(製品名レケンビ)、ドナネマブ(製品名ケサンラ)といった抗アミロイドβ抗体薬は、アルツハイマー病の原因になっている物質「アミロイドβ」を減少させる作用があります。

脳内のアミロイド蛋白を減らし、認知症の進行を抑制する



抗アミロイドβ抗体薬(レカネマブ・ドナネマブ)は、脳内に蓄積したアミロイドβのかたまりにくっついて、アミロイドβを除去します。アルツハイマー病を完全に治すことは出来ませんが、早期に治療を始めれば、認知症の進行を緩やかにし、自立した暮らしを長く続けられると期待されています。

治療の対象となるのは、「アルツハイマー病による軽度認知障害(MCI)」と「軽度アルツハイマー型認知症」と診断された方で、以下の条件を満たす方です。

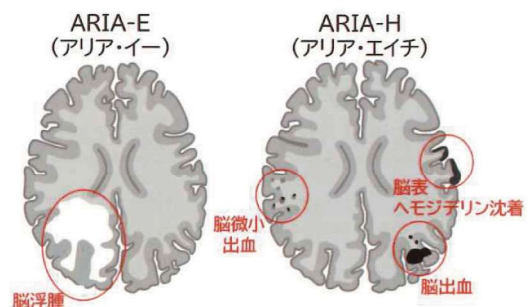
- ① ご本人とご家族・介護者が、投与を検討している抗アミロイドβ抗体(レカネマブ・ドナネマブ)の副作用について理解したうえで、この治療を希望されていること。
- ② この抗アミロイドβ抗体に対する重篤な過敏症がないこと。
- ③ 脳出血の既往がないこと。(出血のリスクが高い方は受けられません。)
- ④ MRI検査で抗アミロイドβ抗体の適応基準を満たしていること。
- ⑤ MRI検査が受けられること。
- ⑥ 心理検査で、適応基準を満たすこと。
- ⑦ アミロイドPET検査、または脳脊髄液検査で、アミロイドβの蓄積が確認されること。



副作用は？

この治療には特有の副作用があるため注意が必要です。

最も注意が必要な副作用は、「アミロイド関連画像異常ARIA(アリア)」と呼ばれる画像異常があります。頻度はおよそ15%程度と報告されています。脳の微小出血と脳のむくみで、これは脳の血管に溜まっているアミロイドβが除去されるために起こる副作用です。このような副作用があるため、治療開始後は決められた時期に定期的にMRI検査を行い、安全を確認しながら治療を進めていきます。



お知らせ コーナー

2026年 自治会報告

今年も各病棟から2～3名の患者様にご参加いただき、自治会を開催しました。食事に関することや院内行事についてなど、多くのご意見・ご要望が挙がり、有意義な意見交換の場となりました。

今回いただいたご意見を、今後の病棟生活やより良い病院づくりに活かしていきたいと思います。



くませいフェスタ開催

6月4日ウイングまつばせにて、くませいフェスタが開催されました。競技内容は去年と同じeスポーツでしたが、種目が少し変更されて、より楽しめる内容となっていました。今年は当院から患者様3名参加しましたが、1チーム4人編成だったので職員が1人加わる形で行いました。地域ごと4つのブロックに分かれ、当院は西ブロックで予選突破をかけて競い合いました。結果は3戦2勝1敗で決勝進出とはなりませんでしたが、参加された患者様方の普段見られない表情や楽しんでいる姿をみる事ができました。お昼からはくまモンが登場し、近くで写真撮影や触れ合う体験ができました。患者様にとって貴重な時間になったと思います。



病院機能評価「認定」

昨年12月に訪問審査を受け、今年6月に日本医療機能評価機構が定める認定基準に達しているとの判定をいただきました。初回認定から20年が経過いたしました。これからもよりよい医療を提供できるよう努めてまいります。



宇城認知症地域連携懇話会事例検討会のお知らせ

令和8年9月4日（金）18：30からウイングまつばせにて、宇城認知症地域連携懇話会事例検討会を開催予定です。今回は、東京医科大学 羽生 春夫先生をお招きし、基調講演していただく予定です。多くの方の参加をお待ちしております。

編集後記

梅雨が明け、厳しい暑さを迎えました。熱中症対策として、こまめな水分補給と適度な塩分補給、涼しい室内で過ごすのが良いと言われていますが、十分な睡眠と栄養、日頃から汗をかける体づくりをしておくことも大切です。自分のペースで、健康に気をつけながら、今年の夏を楽しんでください。

（リハビリテーション科 牛嶋）



関連施設

医療法人 再生会

- 地域拠点型認知症疾患医療センター ☎0964-22-1106
- すみれ訪問看護ステーション ☎0964-22-0402
- 認知症高齢者グループホーム「ぬくもり」 ☎0964-22-1118
- 小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」 ☎0964-22-7277
- うきうき地域生活支援センター ☎0964-22-2510
- 障がい者共同生活援助グループホーム「まつやま」 ☎0964-22-5501



外来診察

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	休 診
午後	○	○	○	○	○	休 診

診 察	月～金曜日	午前の部	9:00～12:30
		午後の部	14:00～17:00

◆休診日：土曜日・日曜日・祝日

お盆休み（8月15日）・年末年始12月30日～1月3日

※ 診察券は、受診時に必ずお持ちください。（診察券は大切に保管してください）

※ マイナンバーカードまたは資格確認証は、受診の都度ご提示下さい。

※ 診察はすべて予約が必要です。事前にご連絡ください。但し、急患はこの限りではありません。



交通のご案内

- JR鹿児島線・三角線 「宇土駅」下車
→タクシー（約10分）
- JR鹿児島線 「松橋駅」下車
→タクシー（約5分）
- 松原交差点から八代方面へ車で約5分

